

日中関係史資料叢書 7

◆監修・編集◆

大里浩秋

神奈川大学

見城悌治

千葉大学

孫安石

神奈川大学

日本の立場から
留学生を支援した、
日中「交流史」
28年の記録。

日華学報

全十六卷



ゆ	ま	に
書	房	YUMANI SHOBU

*「日華学報」創刊号から〈千葉県館山消夏団海水浴〉

『日華学報』復刻版刊行の辞

大里浩秋

このたび「日華学報」の復刻版を刊行することになった。そこで、以前この雑誌をおもしろく読んで、解題を付して目次を紹介した（『日華学報』目次）、神奈川県文学研究所「人文文学研究所報」No.38）ことがある者として、刊行の辞を記すことにした。

まず、この雑誌の発行母体である日華学会について述べる。この名前からは日本と中国を研究対象にする学会組織を思わせるのだが、実際はそうではなく、中華民国から日本に留学した学生のために、学校の選択、入学・転学、宿舍の世話をし、銀行、工場等の実習や見学を紹介し、さらに教育研究に関する中国人の視察等に便宜を与えることを目的にして、大正七（一九一八）年に創設され昭和二十（一九四五）年の敗戦まで続いた日本人の団体であった。なぜこの時期にこのような中国人留学生を支援する団体が日本に存在したのか。明治三十年代（一九〇〇年代初頭）から続々留学してきた中国人を日常生活面で十分に世話することができず、そのため反日になって帰国する者が多かったという反省があった。また、中華民国になってまもなく日本政府が二十一カ条要求を中国政府に突き付け、続いて日華共同防敵軍事協定を認めさせて中国への実効支配を強化しようとする意図を露わにして、日本に求めている留学生を含む多くの中国人の反発を招いていることを緩和する必要に迫られた。そこで、中国と商取引のある会社や銀行が資金を出し、文部省や外務省がバックアップして上記のような留学生の世話を主目的にする日華学会を創ったのである。しかし、満洲事変から日中戦争へと日中間の対立・緊張が深まっていくと、留学生の世話には維持しつつも、彼らを母国と対立する日本の立場を理解する「親日家」に育てる役割を担って、敗戦まで継続することになる。

ここで、日華学会が発行した出版物に触れると、創立の年から五年間（大正七〜十一年）は『日華学会報告』、次いで名前を変えて『日華学会年報』が二十三年間（大正十一〜昭和十九年）発行されて、取り組んだ内容を一年ごとに紹介しているが、それとは別に昭和二（一九二七）年から発行されたのが『日華学報』であった。創立から九年を経て、その間に上記の報告や

年報に載せる中身とは違う、各種の留学に関する情報を豊富に盛った機関誌の発行が待望されるようになって、ついにこの雑誌の誕生を見たのである。

発行の間隔は、十一号まではほぼ季刊で出され、十二号から三十四号まではほぼ月刊であり、その後は二カ月から三カ月の間隔で発行された。月刊に定着させるのが目標であったようであるが、そうはいかず、最後の二号については、九十六号は前号から一年経った昭和十九年六月に出され、事実上の終刊号である九十七号の場合は敗戦後の二十年十月に出ているのである。この間隔のちぐはぐさにそれぞれの時期の日華学会が抱えていた事情が潜んでいるのであろう。

内容について言うならば、留学に関する文部省・外務省の規則類、駐日中華民国公使館・学生監督処が出す留学生関係規定、留学生を収容する各種学校についての入学等に関する情報、留学生を収容する学校ごとの入学・在籍・卒業等の記録、留学生総会・各省同窓会に関する情報、留學生生史に関する論述、専門家の論説・講演記録、留學生による研究発表等々、多岐にわたっている。

そして、この雑誌の編集方針として、「政治外交に亘らざる」（第一号の「編輯余録」）、つまり、政治外交には触れないことを謳って、それを守りつつ誌面を構成してしばらく経るのであるが、満洲事変勃発前後で（第三十七号を境にして）徐々に変化を生じていることに気づく。事変が起こって中国側の反応が気になり、まもなく「満洲国」留学生の受け入れも始まって、日中両国の政治外交上の対立がいつそう無視できなくなってきたという事情が底辺にあるからに違いないが、自らに律していたはずの政治に触れないという方針を思わず破ってしまっている記事が次第に多くなり、とくに日中戦争が始まってから（第六十三号から）は、号を追うごとに日本の侵略の正当性を説教して、留学生をその方向に動員しようとする傾向が目立ってくる。

総じて、『日華学報』は、一九二〇年代から四十五年の日本敗戦までの中国人日本留学に関する情報を豊富に具えている雑誌である。その時期の留學生の実態を知る上で、またその時期の受け入れ側の日本の実態を知る上で、この雑誌に載った各種の記事や統計は役立つに違いない。活用していただければ幸いです。（神奈川県文学研究所）

創刊の辞

日華學會常務理事 山井格太郎

日支兩國は東亞の二兄弟國である、國を建てる各々數千年、人種相同じく、風俗相同じく、古來交通、夙に文化的提携を實現し、我邦文物典章の修備、一に支那の輸入に負ふ所多く、今日支那の日新學術の吸收は、我邦留學に待つ處少くない、乃ち日支兩國は歴史的に地理的に、將た民族的に、最も密接の交渉を有し、相頼り相助けて以て世界最舊の二大國家を形成せると共に、今日以後亦相與に歐人の所謂絶東の紛糾せる重大局面に周旋して、其平和を維持し、黃民族の利益幸福を増進し、亞細亞の興隆發展を成就するの大使命を負担して居る、由來兩國の關係を稱して唇齒輔車の國と爲すは、單なる形容の語のみでない。

東京高等師範特設豫科

（九年二月十九、二十日）

一、次ノ文中右傍ニ傍線ヲ附シタル漢字ノ右傍ニ讀假名ヲ附ケヨ。

暖かい縁に背を丸くして横になる。小枝の先に散残つた枯れ枯れの紅葉が目に見えぬ風にある。時に蠅のやうな小さな蟲が小春の日光を浴びて、垣根の目陰に斜に閃く。眩しくなつた眼を室内へ移して鴨居を見るとき、「いにしへ初冬」の額が薄ら寒く懸かつて居る。

（其の11）

二、次ノ文中左傍ニ傍線ヲ附シタル漢字ノ右ニ讀假名ヲ附ケヨ。

彼は彼の尊敬する和漢の天才の前には常に謙遜である、

とを忘れるものではない。がそれだけに又同時代の屑々たる作者輩に對しては、傲慢であると共に飽くまでも不遜である。さうして更に厭ふべき遼東の家だつたといふことは、どうして安々と認められよう。しかも彼の強大な「我」は「悟り」と「諦め」とに避難するには、餘りに情熱に溢れてゐる。

英 語 (其の一)

1) A man may usually be known by the books he reads, as well as by the company he keeps, for there is a companionship of books as well as of men, and one should always live in the best company, whether it be of books or of men.

2) A little boy received from his grandfather on his birthday a present of money. Now he thought there was nothing more pressing to be done than to run into the town and to peep into all the shops where children's playthings were sold.

文 法 (其の二)

1) 英文和譯第一問中

本文見本 80%に縮小してあります

●日華学会と『日華学報』

日華学会は、中国人留学生支援のために組織された半官半民の団体で、創設は、大正7年（1918）4月。解散は昭和20年（1945）の敗戦後である。活動のメインは日露戦後（1900年代初頭）から増え始めた中華民国からの留学生支援であり、特に劣悪な下宿の改善があげられている。具体的には、寄宿舎の提供、経済援助、東亜学校（日本語予備校）の経営、会社の実習の紹介、臨海宿舎の設置など多岐にわたった。

『日華学報』は、日華学会の機関誌であり、学会創立から9年後に創刊された、中国人留学生に関するすべてが盛り込まれた雑誌であった。（詳細は「刊行の辞」を参照されたい）第1号（昭和5年、1927年）～第97号（昭和20年、1945年）まで存続。なお、日華学会草創期の状況を鳥瞰することができる『日華学会報告』（第1回～第5回、大正7年～同11年）も復刻した。

●日華学会の性格と歴史的变化

1911年に辛亥革命が起こった際、財界有志（山本条太郎・白岩龍平ら）が結成した「支那留学生同情会」が集めた多額の寄付金を基盤とする半官半民団体として、日華学会はスタートした。初代会長は小松原英太郎（元文部大臣）。渋沢栄一は顧問に就任した。1921年（大正10年）に文部・外務両大臣の許可で財団法人となり、文部省から国庫補助を受け、大震災以後は外務省文化事業部から国庫補

助を受ける。また、財界からも寄付金を募った。その後、1938年に日華学会は興亜院の管轄下に、1942年には大東亜省の管轄下となる。そして、1945年1月に「財団法人日華協会」へ統合されたが、同年8月の敗戦によって活動を停止した。

●日中文化交流史上の重要資料

『日華学報』は、1920年代から45年までの中国人留学生に関する情報を豊富に備えている雑誌である。当時の留學生の実態を知る上で、また、その受け入れ側である日本の実態を知る上で、この雑誌に載った各種の記事や統計は一級の史料といえよう。当時の中国人日本留学史さらには、日中教育交流史の実態を明らかにするのにこの雑誌は欠くことのできないものであり、かつ日中文化交流史の歴史的一端を明らかにしてくれる文献資料である。異文化交流史のうえからも貴重な資料である。

●日本語教育との関連

東亜高等予備学校の創始者であり、周恩来と魯迅の先生として知られる松本龜次郎（1866-1945）の研究などにも『日華学報』が使われている。来日した中国人留學生たちはどんな日本語教育を受けてきたのか、松本龜次郎たちはどんな教育理念を持っていたのか等、まだ今後も解明するべき点は多い中で、『日華学報』はその格好の資料となるだろう。

[監修・編集] 大里浩秋 神奈川大学 / 見城梯治 千葉大学 / 孫安石 神奈川大学

●全16巻揃定価343,350円(本体327,000円) ISBN978-4-8433-4045-5 C3321 A5判上製/函入

第1回配本 全4巻 揃定価80,850円(本体77,000円) ISBN978-4-8433-4046-2 2012年9月刊行予定

- ◆第1巻◆日華学会報告 第1回~第5回(大正7年5月~大正11年3月) 定価10,500円(本体10,000円) ISBN978-4-8433-4049-3
- ◆第2巻◆日華学報 1号~4号(昭和2年8月・11月/昭和3年2月・6月) 定価23,100円(本体22,000円) ISBN978-4-8433-4050-9
- ◆第3巻◆日華学報 5号~8号(昭和3年9月・11月・12月/昭和4年4月) 定価23,100円(本体22,000円) ISBN978-4-8433-4051-6
- ◆第4巻◆日華学報 9号~13号(昭和4年7月・10月/昭和5年1月・4月・5月) 定価24,150円(本体23,000円) ISBN978-4-8433-4052-3

第2回配本 全6巻 揃定価132,300円(本体126,000円) ISBN978-4-8433-4047-9 2013年1月刊行予定

- ◆第5巻◆日華学報 14号~19号(昭和5年7月~11月/昭和6年1月) 定価21,000円(本体20,000円) ISBN978-4-8433-4053-0
- ◆第6巻◆日華学報 20号~26号(昭和6年2月~8月) 定価22,050円(本体21,000円) ISBN978-4-8433-4054-7
- ◆第7巻◆日華学報 27号~34号(昭和6年9月~昭和7年4月) 定価22,050円(本体21,000円) ISBN978-4-8433-4055-4
- ◆第8巻◆日華学報 35号~42号(昭和7年6月・8月・10月・12月/昭和8年2月・3月・6月・8月) 定価23,100円(本体22,000円) ISBN978-4-8433-4056-1
- ◆第9巻◆日華学報 43号~49号(昭和8年10月・12月/昭和9年2月・6月・9月・12月) 定価23,100円(本体22,000円) ISBN978-4-8433-4057-8
- ◆第10巻◆日華学報 50号~55号(昭和10年3月・5月・8月・12月/昭和11年2月・3月) 定価21,000円(本体20,000円) ISBN978-4-8433-4058-5

第3回配本 全6巻 揃定価130,200円(本体124,000円) ISBN978-4-8433-4048-6 2013年3月刊行予定

- ◆第11巻◆日華学報 56号~60号(昭和11年6月・8月・11月・12月/昭和12年3月) 定価21,000円(本体20,000円) ISBN978-4-8433-4059-2
 - ◆第12巻◆日華学報 61号~66号(昭和12年3月・7月・8月・11月・12月/昭和13年2月) 定価23,100円(本体22,000円) ISBN978-4-8433-4060-8
 - ◆第13巻◆日華学報 67号~74号(昭和13年3月・6月・8月・10月・12月/昭和14年3月・5月・7月) 定価23,100円(本体22,000円) ISBN978-4-8433-4061-5
 - ◆第14巻◆日華学報 75号~82号(昭和14年9月・12月/昭和15年3月・5月・7月・9月・11月) 定価22,050円(本体21,000円) ISBN978-4-8433-4062-2
 - ◆第15巻◆日華学報 83号~89号(昭和16年2月・4月・9月・11月/昭和17年1月・3月・5月) 定価22,050円(本体21,000円) ISBN978-4-8433-4063-9
 - ◆第16巻◆日華学報 90号~97号(昭和17年7月・9月・11月/昭和18年3月・6月・11月/昭和19年6月/昭和20年10月) 定価18,900円(本体18,000円) ISBN978-4-8433-4064-6
- 解説・人名索引

日中関係史資料叢書 詳細内容見本謹呈します。

抗日・排日関係史料 日中関係史資料叢書 1
 一上海商工会議所「金曜会パンフレット」一 [監修] 金丸裕一
 全11巻・別巻1 ●揃定価205,590円(本体195,800円)

中国紳士録 日中関係史資料叢書 2
 [監修] 金丸裕一 全2巻 ●揃定価50,400円(本体48,000円)

中國年鑑・大陸年鑑 日中関係史資料叢書 3
 [監修] 金丸裕一 全13巻 ●各定価24,150円(本体23,000円)

南京 日中関係史資料叢書 4
 [監修] 金丸裕一 全1巻+別冊 ●揃定価45,150円(本体43,000円)

大陸会社便覧 日中関係史資料叢書 5
 [監修] 金丸裕一 全3巻 ●揃定価32,550円(本体31,000円)

中支那經濟年報 日中関係史資料叢書 6
 [監修] 金丸裕一 全5巻 ●揃定価129,150円(本体123,000円)



〒101-0047
 東京都千代田区内神田2-7-6
 TEL .03 (5296) 0491
 FAX.03 (5296) 0493
<http://www.yumani.co.jp/>
 e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特にすすめたい方● 大学図書館、日本近代史・中国史・日本語教育史・植民地史・異文化交流史の研究者、関係研究機関・留学生センターなど。

ご注文書	ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日		取扱店	
	日華学報 全16巻 揃定価343,350円(本体327,000円) ISBN978-4-8433-4045-5 C3321			セツ
	お名前	TEL ()		
ご住所				

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。

12.09/01.7000.H